資料３

京都駅西部エリア活性化
将来構想（案）

平成２６年１２月

京都市下京区西部エリア活性化将来構想策定委員会

目　次

Ⅰ　はじめに

1　構想策定の背景と目的 …… 1
2　構想策定の基本事項 …… 2

Ⅱ　エリアのポテンシャルと課題

○　図　表「エリアのポテンシャルと課題」 …… 4
1　居　住 …… 5
2　業　務 …… 6
3　集　客 …… 7
4　交　通 …… 8
5　地域連携 …… 9

Ⅲ　京都駅西部エリアの将来ビジョン

1　活性化に向けた取組イメージ …… 10
2　2つの仕組み …… 12
3　8つの方策 …… 16

Ⅳ　進捗管理 …… 26

Ⅰ　はじめに

1　構想策定の背景と目的

京都駅西部エリア（以下「本エリア」という。）は，古くは平安京の南部に位置し，南北に貫く都のメインストリート・朱雀大路を中心に，東西の市や鴻臚館などの重要な都市機能が集積した地域である。

現在も，平安建都 1200 年記念事業として整備された梅小路公園をはじめ，京都市中央卸売市場第一市場（以下「京都中央市場」という。）や京都リサーチパーク（KRP），商店街，文化・観光施設，寺社，大学といった多彩な地域資源が集積しており，京都の成長戦略を推進し，都市格を高めていくうえで大変重要な地域となっている。

とりわけ梅小路公園界わいでは，京都水族館や京都鉄道博物館など，民間事業者による大きな集客施設の整備が進む一方で，京都市も，梅小路公園の拡張再整備や，京都中央市場の施設整備及びそれに伴う「賑わいエリア」の創出に向けた取組を進めている。また，地元や京都商工会議所から「七条通付近における新駅の設置」について強い要望を受け，ＪＲ西日本と京都市が共同で新駅設置に関する検討を重ねているところである。

このように，民間活力と京都市の施策が融合する中で，大きく高まっている活性化の機運を確実な流れとするためには，市民，企業，関係団体が長期的な見地に立った将来ビジョンを共有し，叡智を結集して，本エリアの活性化に取り組む必要がある。

そのために，本エリアの将来ビジョンと概ね今後 10 年間で取り組むべき方策を明らかにし，京都駅の東部エリア等，周辺地域の活性化の動きと一体となって，20 年後，30 年後，更には平安建都 1300 年に向けて，京都全体の大きな飛躍につなげていくことを目的として，「京都駅西部エリア活性化将来構想」を策定するものである。

以下，本委員会として，「京都駅西部エリア活性化将来構想」の策定について，提言する。

2　構想策定の基本事項

期間

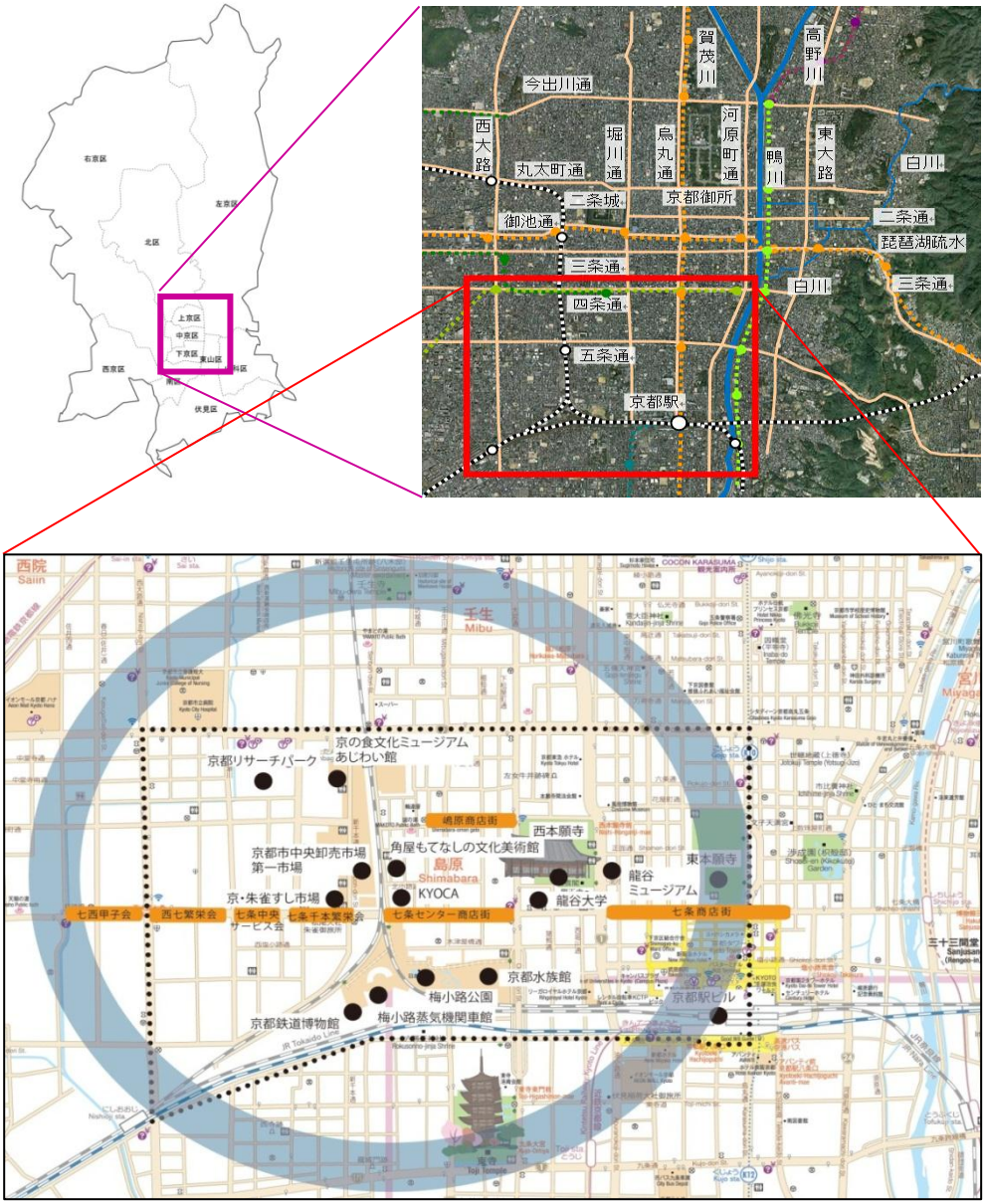
長期的な見地に立った将来ビジョンを設定するとともに，その実現に向けて，概ね今後10 年間（平成 27 年度～平成 36 年度）で取り組むべき具体的方策をとりまとめた。

特に，平成 32 年に東京五輪が開催され，海外からの来訪者もより一層増加すると見込まれることも見据えて，前半５年間（平成 27 年度～平成 31 年度）に強力に取組を推進する。

対象エリア

北は五条通，南は JR 京都線，東は烏丸通，西は西大路通に囲まれたエリア（下図 点線で囲まれたエリア）を中心とし，その周辺にある「東寺」や「壬生寺」等までを含めたエリア（下図 青線で囲まれたエリア）を「京都駅西部エリア」と位置付け，対象エリアとした。

【図表】京都駅西部エリアのイメージ



策定の考え方

すべての地域主体が将来ビジョンを共有し，民間活力と京都市の施策を融合させる。

上記の考え方のもと，以下の①～④の進め方に基づき，構想を策定し，本エリアの活性化に取り組む。

① **これまで「課題」と考えてきたことを「ポテンシャル」として捉え直す。**

② **個々の資源のポテンシャルをいかす，また，それらを結びつけることによって新たな可能性を追求する。**

③ **本エリアに限定するのではなく，常に他のエリアとの連携を図り，他のエリアへの波及効果を追求する。**

④ **適切な時期に，具体的な指標により活性化の達成状況を検証して，取組を見直し，それを実行するというサイクルを確立する。**

Ⅱ　エリアのポテンシャルと課題

居　住

〔ポテンシャル〕
- ○ 梅小路公園等，緑やうるおい豊かな空間
- ○ 商店街や病院等，充実した生活利便施設

〔課　題〕
- ● 高齢化への対応，新たに転入してきた居住者との調和
- ● 空き家等の活用，流通の促進（市内3位の空き家率）

業　務

〔ポテンシャル〕
- ○ 京都駅周辺への商業・業務機能の集積
- ○ 産学公連携と新産業創出の拠点・KRP※
- ○ 京都の食文化を支える京都中央市場

〔課　題〕
- ● KRPを核とした業務機能の強化
- ● 京都中央市場を強みとした食の取組の推進
- ● 商店街の活性化

集　客

〔ポテンシャル〕
- ○ 数多くの魅力的な歴史・文化資源（東・西本願寺，島原，龍谷ミュージアム等）
- ○ 新たな集客施設（京都水族館，京都鉄道博物館等）
- ○ 鉄道の聖地（様々な車両が行き交う光景等）

〔課　題〕
- ● 歴史・文化資源の保存・継承と魅力の再発見
- ● 低・未利用地の活用の促進（公有地・民有地を問わず）

※　「KRP」…　京都リサーチパーク株式会社，京都市産業技術研究所，京都高度技術研究所等。
約340社が入居し，1日約4，000人がオフィス・研究施設・会議室を利用している。

交　　通

〔ポテンシャル〕
- ○ 京都の玄関口であるJR京都駅
- ○ 七条通付近におけるJR新駅設置の動き

〔課　題〕
- ● 本エリアへのアクセスの向上（大きな回遊）
  ー　特に，都心から梅小路公園まで
- ● エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）

地　域　連　携

〔ポテンシャル〕
- ○ 多様な地域主体による活性化に向けた動き

〔課　題〕
- ● 多様な地域主体が連携して活性化に取り組む仕組みの構築

1　居　住

交通アクセスが良く，良好な住環境が形成されているため，京都駅周辺エリアで単身世帯が，梅小路西エリアではファミリー層が増加し，住宅系の土地利用が大幅に増えている。その一方で，全市的な傾向と同様，高齢化が進んでいることもあり，空き家率も高くなっている。

ポテンシャル

○　緑やうるおい豊かな空間

梅小路公園や東・西本願寺等，都心部でありながら，緑あふれる施設や広大な空間があり，身近にうるおいを感じられる環境がある。

○　充実した生活利便施設

商店街や商業施設，病院，福祉施設等，生活利便施設が充実している。

課　題

●　高齢化への対応，新たに転入してきた居住者との調和

居住層の変化に対応し，多様な世代や嗜好を持った人々が，安心・安全で幸福を実感できるまちを目指す。

新たな住民も取り込んだ形で，地域住民相互のつながりを強化し，地域コミュニティの活性化を図る。

●　空き家等の活用，流通の促進

京都らしい町並みを保全・再生しながら，空き家等の活用・流通の促進を図り，多様なニーズに対応できる居住空間を創出する。

2 業　務

京都駅周辺エリアでは，事業所集積が進捗し，小売業年間販売額も増加している。その一方で，商店街や京都中央市場が立地している梅小路西エリアでは，事業所・従業者数が減少し，小売業年間販売額も大きく減少している。

ポテンシャル

○ 京都駅周辺への商業･業務機能の集積

他都市からのアクセスの良さ等を背景として，京都駅周辺を中心に，商業・業務機能が集積している。

○ 産学公連携と新産業創出の拠点･KRP

ＫＲＰ※は，平成元年のオープン以降，順調に入居者を増やし，「産学公連携拠点・新産業創出拠点」として機能している。

※　以下「ＫＲＰ」と記載する場合は，京都リサーチパークという敷地又はその敷地にある施設（京都リサーチパーク株式会社，京都市産業技術研究所，京都高度技術研究所等）の集合体を指す。

○ 京都の食文化を支える京都中央市場

「和食」のユネスコ無形文化遺産登録を機に，京都・日本の食文化の価値が再認識され，その継承・発展の機運が高まっている。

京都中央市場は，昭和２年に日本で最初の中央卸売市場として開市して以降，京都の食文化を支える流通拠点として機能している。現在，施設整備が検討されており，水産棟は平成 31 年度に，青果棟は平成 37 年度に完成する予定である。

また，京都中央市場内に，食に関する施設として，平成 24 年に「すし市場」，平成 25 年に「京の食文化ミュージアム・あじわい館」が，平成 26 年７月には，京都中央市場の周辺に「KYOCA（京果会館）」が相次いでオープンした。

課　題

● KRPを核とした業務機能の強化

ＫＲＰがあることの強みをいかし，その周辺において民間事業者・研究機関の集積を図るとともに，ＫＲＰと周辺事業者のつながりを強化し，新事業の創出を図る。

● 京都中央市場を強みとした食の取組の推進

京都中央市場直送の強みをいかし，周辺の施設・事業者が連携して，食による新たな賑わいを創出する。

● 商店街の活性化

地域住民の高齢化や生活様式の変化に対応するとともに，周辺施設への来訪者を呼び込む。地域コミュニティ活性化の重要な担い手としての役割を積極的に果たす。

3 集 客

世界文化遺産や国宝，重要文化財等，数多くの魅力的な歴史・文化資源，市民の憩いの空間である梅小路公園，京都水族館など，幅広い世代が楽しめる多様な集客施設が集積している。平成 28 年春には，京都鉄道博物館が開業する予定であり，更なる集客が見込まれる。

ポテンシャル

○ 数多くの魅力的な歴史・文化資源

世界文化遺産や国宝，重要文化財である東・西本願寺，角屋，東寺，壬生寺や，京都をつなぐ無形文化遺産「京・花街文化」に選定された島原エリア，これまでに例のない仏教総合博物館である龍谷ミュージアムなど，歴史的・文化的価値を有する資源が多数存在している。

○ 新たな集客施設

平成 24 年３月に京都水族館が開業し，平成 26 年３月には，梅小路公園に「すざくゆめ広場」「市電ひろば」の２つの新広場が開園した。平成 28 年春には，梅小路公園に，国内最大級の京都鉄道博物館が開業する予定である。

○ 鉄道の聖地

貴重な動態保存蒸気機関車等，日本の鉄道の歴史を体験できる梅小路蒸気機関車館があり，平成 28 年春には，京都鉄道博物館が開業する予定である。また，ＪＲ京都駅や東海道本線・山陰本線沿線では，様々な種類の車両が行き交う光景が見られるなど，「鉄道の聖地」と呼ぶにふさわしい地域である。

課 題

● 歴史・文化資源の保存・継承と魅力の再発見

歴史・文化資源を保存・継承するとともに，既存の資源の新たな魅力を発見し，発信する。

● 低・未利用地の活用の促進

公有地・民有地を問わず，現在十分に活用されていない，あるいは，今後生じる低・未利用地について，魅力的なイベントや集客施設を積極的に誘致する。

4 交　通

「居住」,「業務」,「集客」等，様々な人の流れを生み出すためには，本エリアへのアクセスが良く，エリア内を回遊しやすいことが重要である。

七条通付近にＪＲ新駅が設置されれば，本エリアの核となる梅小路公園周辺へのアクセスが格段に向上する。

ポテンシャル

○　京都の玄関口であるJR京都駅

京都の玄関口であるＪＲ京都駅があり，他都市から本エリアへのアクセスが良い。

なお，ＪＲ西日本の１日当たり乗車人員（平成 25 年）では，京都駅は，大阪駅に次いで２位と多くの利用者があり，かつ近年増加傾向にある。

○　七条通付近におけるJR新駅設置の動き

本エリア内の鉄道駅は，いずれもエリアの周辺部にあり，中央に位置している梅小路公園にアクセスするには不便であるが，七条通付近にＪＲ新駅が設置されれば，アクセスが格段に向上する。

課　題

●　本エリアへのアクセスの向上（大きな回遊）
―　特に，都心から梅小路公園まで

本エリア内には，ＪＲ３駅（京都駅，丹波口駅，西大路駅），地下鉄２駅（京都駅，五条駅）があるほか，七条通を中心に市バスの運行が充実しているが，都心から梅小路公園までのアクセスが不便であるという声も多い。

本エリア，京都全体の活性化につなげていくために，更にアクセスを向上させ，市内の他のエリアを訪れた観光客を本エリアに呼び込む，あるいは，本エリアへの来訪者を市内の他のエリアに誘導する。

●　エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）

来訪者にエリア内を回遊してもらうために，「より安全に」「より楽しく」歩くことができ，また，自転車で走行できる環境を整備する。

5　地域連携

この将来構想に掲げる方策を着実に推進し，本エリアを活性化していくためには，すべての地域主体が将来ビジョンを共有したうえで，自らが取り組むべき事柄を実行するとともに，その動きを有機的に連関させていくことが必要である。

ポテンシャル

○　多様な地域主体による活性化に向けた動き

本エリアには，様々な施設や団体，事業者，大学等が存在し，それぞれに，活性化に向けた活発な動きがある。また，地域主体が連携した新たな取組も行われている。

課　題

●　多様な地域主体が連携して活性化に取り組む仕組みの構築

多様な地域主体が，本エリアの将来ビジョンを共有し，各々が果たすべき役割を認識したうえで，連携によるまちづくりを進めていく仕組みを構築する。

Ⅲ　京都駅西部エリアの将来ビジョン

1　活性化に向けた取組イメージ

将来ビジョンと3つの活性化イメージ

本エリアは，歴史あるもの“京都らしさ”と時代の最先端を行くもの“新しさ”が併存しているエリアであり，それ故，多彩な地域資源を有し，施設や団体，事業者，大学など，様々な地域主体が存在している。こうした状況を本エリア最大のポテンシャルとして捉え，次のとおり将来ビジョンを設定する。

将来ビジョン　「多彩な地域資源をつなげ，京都の新しい賑わいを創出するまち」

この将来ビジョンを，「居住」「業務」「集客」の視点から，より具体的にイメージしやすくしたものが，次の３つの活性化イメージである。

活性化イメージ1　全ての居住者が安心して暮らし，文化を楽しむまち
活性化イメージ2　新しいビジネス･活気を生み出すまち
活性化イメージ3　幅広い世代の人々が多く集まり，楽しめるまち

2つの仕組み

個々の取組を推進していくに当たって，基盤となるのが２つの「仕組み」であり，その重要性に鑑み，１０の推進項目を早期に実現する。

8つの方策

本エリアの活性化に重要な役割を担う地域資源に着目し，８つの「方策」として取りまとめた。

８つの方策・３４の推進項目を強力に推進するとともに，それぞれの方策を結びつけることにより，相乗効果を生み出す。

【図表】構想の全体像

将来ビジョン

将来ビジョン　多彩な地域資源をつなげ，
京都の新しい賑わいを創出するまち

活性化イメージ

活性化イメージ 1
全ての居住者が安心して暮らし，文化を楽しむまち

- ○ 緑や歴史・文化資源に触れ合える豊かなまちなか居住が進む。
- ○ 空き家の活用等により，地域のまちづくり活動が活発になり，地域コミュニティが活性化する。

活性化イメージ 2
新しいビジネス・活気を生み出すまち

- ○ 京都中央市場直送の強みをいかし，食による賑わいが創出される。
- ○ 地域に密着した商店街が活性化する。
- ○ ＫＲＰを核とした新事業の創出が進む。
- ○ 京都駅周辺への商業・業務機能の更なる集積（都市機能の集積）が進む。

活性化イメージ 3
幅広い世代の人々が多く集まり，楽しめるまち

- ○ 京都鉄道博物館が開業（平成 28 年春）し，鉄道ファンをはじめ，各地から幅広い層の人々が訪れる。
- ○ 京都中央市場整備に伴う「賑わいエリア」等の活用や，歴史・文化資源を訪れる層の拡大により，更なる賑わいが創出される。
- ○ 梅小路公園が賑わいの一大拠点となる。

2つの仕組み

仕組み 1　**人と公共交通優先の「歩くまち京都」を実現する交通戦略**

仕組み 2　**京都ならではの地域力・市民力をいかした「まちづくりの仕組み」の構築**

8つの方策

- 方策 1　緑やうるおいを感じられるまちなか居住の推進
- 方策 2　梅小路公園の拠点機能の強化
- 方策 3　京都・日本の食文化の牽引
- 方策 4　地域に密着した商店街の活性化
- 方策 5　ＫＲＰを核とした新事業・ソーシャルビジネスの創出
- 方策 6　鉄道の聖地としての飛躍
- 方策 7　新たな地域資源の創出と歴史・文化資源の継承
- 方策 8　低・未利用地（公有地・民有地問わず）の戦略的活用の促進

2　2つの仕組み

仕組み 1　人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現する交通戦略

今後の高齢化も踏まえ，良好な「居住環境」を維持・向上させるとともに，本エリアの持つ「商業・業務機能」，「文化・観光資源」といったポテンシャルをいかして，エリアを活性化し，京都全体の飛躍につなげていくためには，よりきめ細やかで，戦略的に交通アクセスの充実を図る必要がある。

このため，人と公共交通を優先する「歩くまち・京都」の理念のもと，本エリアと市内各所とをつなぐ「大きな回遊」と本エリア内における「小さな回遊」に分けた，本エリアの交通戦略に取り組む。

取組① 七条通付近におけるJR新駅の設置をはじめとした本エリアへのアクセスの向上（大きな回遊）

ＪＲ山陰本線京都駅～丹波口駅間において，本エリアの中心部に位置する七条通付近への新駅設置を推進し，この新駅を軸とした鉄道・路線バス等の公共交通の利便性向上を図ることにより，大きな回遊・アクセス（市外からのアクセス，本エリアと市内観光地等とのアクセス）を向上させる。併せて，車利用から公共交通への更なる転換を図る。

推進項目

1　JR新駅設置の推進

ＪＲ山陰本線京都駅～丹波口駅間において，本エリアの中心部に位置する七条通付近に市民や観光客が使いやすい新駅を設置することにより，「住む」，「働く」，「遊ぶ」といった様々な側面から新たな人の流れをつくり，地域の活性化を図る。

2　バスによるアクセスの充実

梅小路公園（ＪＲ新駅）と市内各所（市中心部や他の観光地など）を結ぶ路線バスの系統・便数の改善，案内の充実等を図るとともに，次世代型バスシステムの導入（ＢＲＴ）等による定時性の確保について検討し，ターミナルとしての機能を持たせる。

3 京都駅南口駅前広場の整備

京都駅南口（八条口）において，歩行者空間の創出や公共交通の乗継利便性の向上を図り，京都の玄関口にふさわしい，より一層使いやすく，人にやさしい駅前広場となるよう再整備する。

＜整備のポイント＞

〇限られたスペースの有効活用

- 八条通の車線数を減らすことによる歩行者空間や駅前広場空間の創出
- 地下空間を有効利用した機械式地下駐輪場の採用
- 駅前広場の適正な利用のための観光バス・タクシーのショットガン方式の導入

〇公共交通の乗継利便性の向上

- 八条通の東西に分散しているバス停を駅正面に集約
- エスカレーター等を設けた屋根付きの拠点広場（デッキ）を駅正面に設置（雨に濡れず駅からバス停へ移動できる）

〇快適な歩行者空間の創出

- 段差のないバリアフリー対応の歩行者空間の整備
- 大屋根を備え，豊かな木の文化を感じられる京都らしい拠点広場の設置
- 人が憩える大階段等を設置したアバンティ前のサンクンガーデンの整備

4 JR西大路駅のバリアフリー化

１日平均３万人以上の利用があり，京都を代表するモノづくり企業が周辺に立地するＪＲ西大路駅について，高齢者や障害のある方をはじめ，誰もが安心・安全かつ円滑に移動できるよう，駅や周辺の道路等のバリアフリー化整備を進める。

〇主な整備内容（予定）

- エレベーターの新設（段差の解消）
- 内方線ブロックの整備（ホームからの転落防止対策）

〇今後の予定

- 西大路地区バリアフリー移動等円滑化基本構想策定連絡会議の設置（平成２７年度）
- 「西大路地区バリアフリー移動等円滑化基本構想」の策定（平成２８年度）
- バリアフリー化整備（平成３２年度までに完成）

取組② エリア内の回遊性の向上（小さな回遊）

多くの市民や観光客が集まる梅小路公園や京都駅を起点として，エリア内の多彩な地域資源への徒歩や自転車による回遊性を向上させ，地域の魅力発信と活性化を図る。

推進項目

1 楽しく回遊できる歩行者環境の整備

鉄道駅からエリア内の各施設まで，あるいは，エリア内の施設から施設までの移動が，迷わずスムーズに，かつ，楽しく快適にできるよう，ベンチやモニュメント等の仕掛けをつくる。また。エリア内で飲食や休憩ができる場所等の情報を発信する。

2 自転車による回遊性の向上

自転車による回遊性を向上するため，七条通における自転車走行環境の整備や，より利便性の高いレンタサイクルの導入に取り組む。

3 楽しみながら利用できる乗り物による回遊性の確保

楽しみながら利用できる乗り物による回遊性の確保を図るため，ベロタクシーや人力車をはじめとする事業者の誘致等に取り組む。

仕組み 2　京都ならではの地域力・市民力をいかした「まちづくりの仕組み」の構築

取組③　多様な地域主体の連携によるまちづくり

本エリアの活性化を進めていくためには，多様な地域主体が主体的かつ積極的に地域の活性化に取り組むとともに，その取組を有機的に連関させていくことが必要であり，そのための仕組みを構築する。

推進項目

1　市民のまちに対する愛着（シビックプライド）の向上

本エリアに関わるより多くの人の，自らのまちに対する愛着が深まるよう，まちづくりの実践や地域の魅力発信に取り組む。

2　まちづくりを担う人材の確保・リーダーの育成

地域主体による様々な活動の紹介や，交流の場を設けることなどにより，自ら行動したいと思った人が，気軽にまちづくりに参画できるようにする。また，まちづくりの実践，地域主体間の交流等を通じて，本エリアの活性化を牽引する人材を育成する。

3　エリアマネジメント組織の設立

エリア内の施設・団体，事業者，行政等，多様な地域主体が連携して，本エリアのまちづくりに取り組むために，エリアマネジメント組織を設立し，地域が主体となって運営する。エリアマネジメント組織においては，関係者間の連携強化やコーディネート，事業の企画立案，効果的な情報発信等に取り組む。

3　8つの方策

方策 1　緑やうるおいを感じられるまちなか居住の推進

本エリアに住み続けたい，住んでみたいと思う人を増やすために，より一層魅力的な居住環境の創出に取り組むとともに，住民同士がつながり，おもいやり，地域の皆で築く暮らしやすいまちを目指す。

推進項目

1　居住環境の向上

歩行者空間の改善や憩いの場所としての公園の整備・活用の促進等により，居住環境のより一層の向上を図る。

2　空き家等の活用・流通の促進

空き家の活用を促す諸制度の運用等による町家の活用や，京都らしい共同住宅の整備の促進に取り組み，幅広い世代の多様なニーズに応えることができる新たな居住空間を創出する。

3　地域コミュニティの活性化

以前から暮らしている居住者と新たに転入してきた居住者との調和を図りながら，地域住民相互のつながりを強化し，互いに支え合い，安心して快適に暮らすことができる地域コミュニティを実現するまちを創出する。

4　地域課題の解決に向けた仕組みづくり

ＮＰＯやボランティア組織など様々な分野ごとの市民活動団体と，自治会等の地域団体が，役割を補完し合いながら連携して，高齢者の生活支援や生きがい創出，子育て支援等，地域の課題解決に向けて取り組む。

方策 2　梅小路公園の拠点機能の強化

平成 28 年春に京都鉄道博物館の開業も予定され，憩いと賑わいの一大拠点へと進化を遂げつつある梅小路公園の魅力を高め，更なる人の流れを生み出すことにより，本エリアの活性化を牽引する。

推進項目

1　緑豊かな憩いの空間としての利用

より多くの方に，街中では貴重な，生物多様性に富んだ，豊かな緑の織りなす自然空間を体感していただくため，「朱雀の庭」「いのちの森」の魅力の発信や，公園の自然をいかした環境教育の充実等に取り組む。

2　公園の多様な活用による賑わいの創出

公園管理者，公園施設の運営事業者，エリア内の事業者・団体等が連携し，京都水族館・京都鉄道博物館に加えた，更なる賑わいを創出する。例えば，高齢者向け健康教室や子育てサロン等，日常生活に彩りを添える様々な活動での活用を促進するとともに，ライトアップやマルシェ等，夜間や冬期の集客につなげるイベントを実施する。

3　総合案内所の機能強化

外国語対応が可能なスタッフの配置や外国語の案内パンフレットの配布など，園内にある総合案内所の機能強化を図り，園内・本エリア内だけでなく，市内の他のエリアの様々な施設やイベント情報も含めた総合案内を行う。

4　利用者が快適で楽しく過ごすための施設整備

バリアフリーに配慮したトイレや休憩場所の整備，モニュメントの設置，案内表示の改善等に取り組み，公園利用者がより快適で楽しく過ごせる環境を整える。

5　広域的防災機能の維持・強化

公園施設の運営事業者との連携強化を含め，災害時に市民や来訪者の安心・安全を確保する広域避難場所としての空間・機能を維持・強化する。

6　利用者ニーズの把握

公園利用者のニーズを定期的に調査し，ソフト・ハード両面にわたる公園の機能向上にいかす。

方策 3　京都・日本の食文化の牽引

京都中央市場直送の強みをいかし，本エリア内の様々な事業者・団体が連携し，京都・日本の食文化を牽引する。

推進項目

1 「食」の流通拠点としての京都中央市場の機能強化

「伝統と革新の調和による先進的で競争力・対応力を有する「食」の流通拠点」を市場経営のコンセプトとして，経営改革や人材育成，施設整備などに取り組む。

2 京都・日本の食文化の魅力発信

外国人観光客も含めた，より多くの人に京都・日本の食文化の魅力を知っていただけるよう，京都中央市場の安心・安全な食材や，京の食文化ミュージアム・あじわい館，KYOCA（京果会館）を活用した食育，料理教室等を通して，魅力を発信する。

3 「食」に関するイベントの開催

本エリア内の様々な事業者や団体等が連携し，京都中央市場直送の強みをいかした特色あるイベントを開催する。

方策 4　地域に密着した商店街の活性化

人口の増加や集客施設の整備，新駅の設置により，新たな人の流れが生まれることを好機と捉え，商店街の活性化に主体的に取り組む事業者を増やす。また，地域コミュニティの重要な担い手としての役割を果たす。

推進項目

1　地域住民の利用促進

地域住民のニーズの把握に努めながら，対面販売の良さや，きめ細やかな対応が可能であるといった商店街の強みをいかし，地域住民の利用促進を図る。

2　来訪者の呼び込み

京都水族館や京都鉄道博物館等，近隣の大型集客施設への来訪者を商店街にも呼び込むため，飲食店の充実や周辺施設との連携に取り組む。また，外国人観光客を呼び込むために，免税店の開設等にも取り組む。

3　空き店舗の活用による新たな事業者の誘致

今後，ＪＲ新駅や大型施設周辺の商店街においては，空き店舗情報の掘り起し，所有者と開業希望者とのマッチング，リノベーション業者との連携等の取組により，客層の拡大につながる特色ある店舗の集積を図る。

4　商店街と賑わいエリア等の連携による地域経済循環モデルの構築

京都中央市場整備に伴う「賑わいエリア」と，商店街等が相乗効果を発揮し，多様な地域主体に好影響をもたらす「地域でお金が回る仕組み」の構築を目指す。

5　商店街の雰囲気を歩いて楽しめる歩行者空間の創出

誰もが安心・安全に商店街での買い物を楽しめる環境を整えるほか，訪れる人の目を楽しませる仕掛けづくりに取り組む。

6 地域コミュニティへの貢献

商店街での人と人との日々の交流や児童の就業体験学習等を通じて，住民相互のつながり，地域の絆を強化し，地域コミュニティの活性化を図る。また，商店街の人々が買い物客や通行者に日常的に声を掛けることで，犯罪や事故が未然に防げる，あるいは，本エリアへの来訪者を案内するといった，商店街が有する付加的な機能の大切さを改めて認識する。

方策 5　KRPを核とした新事業・ソーシャルビジネスの創出

本エリアの集客・居住のポテンシャルの高まりも一つの契機としながら，ＫＲＰを核に，新産業の創出につながる取組を展開する。

推進項目

1　KRPを中心とした産業クラスターの形成

ＫＲＰ内だけでなく，その周辺にも民間事業者や研究機関の更なる集積を促進するために，ＫＲＰの機能強化に取り組むとともに，事業者等の進出機運を高めるような都市計画の見直しについても検討する。

2　新たな事業の創出

地方独立行政法人京都市産業技術研究所や公益財団法人京都高度技術研究所等の産業支援機関が集積するＫＲＰの強みをいかし，周辺の施設・事業者等が，ＫＲＰの様々な機能・技術力・支援制度等を積極的に活用し，新たな事業の創出に取り組む。特に，環境や地域の活性化などの社会的課題をビジネスの手法を用いて解決する「ソーシャルビジネス」の創出に取り組み，その拠点を公益財団法人京都高度技術研究所内に設置することにより，京都のブランド力の更なる向上と地域活性化を図る（「京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター構想」の推進）。

方策 6　鉄道の聖地としての飛躍

鉄道の歴史と現在を体験できる資源が揃っていることを強みに，平成２８年春の京都鉄道博物館の開業も見据えながら，「鉄道」をテーマとした特色あるまちづくりを推進する。

推進項目

1　京都鉄道博物館の開業

各時代で活躍した歴史的価値の高い実物車両約５０両を備えた「見る，触る，体験する」博物館として，梅小路公園に国内最大級の京都鉄道博物館が開業することを契機に，更なる人の流れを呼び込む。

2　市電の魅力の継承・発信

梅小路公園内にある市電車両を用いたカフェやショップ，総合案内所において，市電の歴史やまちの変遷が分かる写真展を行うなどして，市電の魅力をより多くの人に伝える。

3　鉄道に関する新たな魅力の創出

鉄道をテーマとしたイベントの開催や，梅小路公園までのアクセスルート上への鉄道関係のモニュメントの設置，鉄道ファンを更に呼び込める事業者の誘致などに取り組む。

4　幅広い層の来訪者の呼び込み

鉄道の聖地であることを全国的に発信し，鉄道ファンをより広域的に呼び込むとともに，他の目的で本エリアを訪れた人にも，鉄道の魅力を感じていただけるよう，まち全体で鉄道を楽しめるエリアとする。

方策 7　新たな地域資源の創出と歴史・文化資源の継承

優れた地域資源の個々の魅力を高めるとともに，他のエリアの歴史・文化資源も絡めて，物語を紡ぎ，国内外にその魅力を発信する。

推進項目

1　京都中央市場整備に伴う「賑わいエリア」や「有効活用地」の活用

「京・朱雀すし市場」により創出された賑わいを，更に大きな人の流れとするために，京都中央市場整備に伴う「賑わいエリア」や「有効活用地」を活用する。

2　歴史・文化資源の保存・継承

歴史的・文化的価値の高い建造物や街並みを保存・継承していくためには，多くの人にその価値を知っていただく必要があるので，来訪者が資源の魅力に触れ，また，周辺に住む人，働く人がその魅力を改めて実感できる機会を増やす。

3　歴史・文化資源の新たな魅力創出

来訪者の層を拡大するとともに，リピーターを増やすため，ＩＣＴ技術を活用した歴史再現や人工的な臨場感等による新たな魅力の付加や，地域主体の観光ルートの開発（着地型観光）等による従前とは違う視点からの魅力発信に取り組む。

4　新たな資源の魅力発信・隠れた資源の掘り起こし

平成 23 年４月に開館した龍谷ミュージアムなど，新たな資源の魅力を発信する，あるいは，島原の文芸碑や，龍谷大学大宮学舎といった近代建築などの隠れた資源を掘り起こし，著名な資源と関連付けながら知名度を高める等，エリア全体の見所を増やす。

5　点在する魅力のネットワーク化

「新撰組」や「花街文化」，「京都市産業技術研究所や企業ミュージアム等をめぐる産業観光」など，様々な切り口で資源と資源を物語でつないだ散策モデルコースの作成や，非公開文化財の公開を目玉としたウォークツアーの実施等を通して，面的な魅力を発信する。

6 新たな来訪者の層の発掘

これまで歴史に興味を持てなかった人にもその魅力を発見してもらい，より幅広い層に来訪していただくため，歴史的な魅力を有する施設と，水族館・鉄道博物館のような子どもたちに人気の施設が連携した企画を実施する。

7 情報発信ツールの多言語化の推進

外国人観光客に仏教文化や日本の建築美等を十分に堪能していただけるよう，マップ型情報冊子や案内板等の多言語化に取り組む。

方策 8　低・未利用地（公有地・民有地問わず）の戦略的活用の促進

本エリアの活性化の取組を推進することで，エリア内の低・未利用地の使用価値・可能性が一層高まることを契機として，地域の活性化に資する土地の有効利用を促進する。

なお，土地の利用に当たっては，周辺の景観との調和等にも十分配慮する。

推進項目

1　地域の特性に応じた施設の誘致

京都駅周辺においては，大規模災害時の一時滞在施設の設置や，商業・業務等の施設の誘導を図るとともに，梅小路公園（新駅）周辺においては，本エリアの活性化に伴う新たな人の流れに対応するため，都市計画の見直しを含めた検討等を進めるなど，それぞれの地域の特性に考慮しつつ，その土地にふさわしい施設の誘致に積極的に取り組む。

2　多様な活用方法の検討

親子連れをはじめとする来訪者が，京都駅から梅小路公園まで楽しみながら歩くことができるよう，ベンチやモニュメント，バナーフラッグを設置するなど，敷地の中の小規模な空きスペースも有効に活用する。また，イベントの開催など，低・未利用地の臨時的な活用にも積極的に取り組む。

Ⅳ　進捗管理

PDCAによる進捗管理

様々な主体が将来ビジョンを共有し，本エリアの活性化の取組を効果的かつ効率的に進めていくため，指標を設定して，事業の進捗状況や実施効果等を的確に把握し，それに基づいた施策の改善・見直しを行う（ＰＤＣＡ※による管理）。

※ PDCA = Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の４段階の活動の繰り返しによる継続的な業務改善。

指標

活性化イメージ1 「全ての居住者が安心して暮らし，文化を楽しむまち」

より多くの方に本エリアの居住の魅力を実感していただき，本エリアに住み続けたい，住んでみたいと思う人が増えるよう，**「京都駅西部エリアの居住環境に満足する人の割合」**を指標とし，毎年着実に評価を向上させる。

（調査方法）アンケート調査

活性化イメージ2 「新しいビジネス・活気を生み出すまち」

より多くの事業者に，本エリアで事業活動を行うことの利点を知っていただき，本エリアで事業活動を行う事業者が増えるよう，**「京都駅西部エリアの事業所数」**を指標とし，全市的に事業所数が低下傾向にあるが，増加を目指す（平成 24 年経済センサス活動調査：4,420 事業所）。

（調査方法）統計調査

活性化イメージ3 「幅広い世代の人々が多く集まり，楽しめるまち」

国内外を問わず，より多くの人に本エリアを訪れ，多彩な魅力を知っていただき，本エリアのファンが増えるよう，**「京都駅西部エリアを再び訪れたいと思う人の割合（再来訪意向）」**を指標とし，毎年着実に評価を向上させる。

（調査方法）アンケート調査